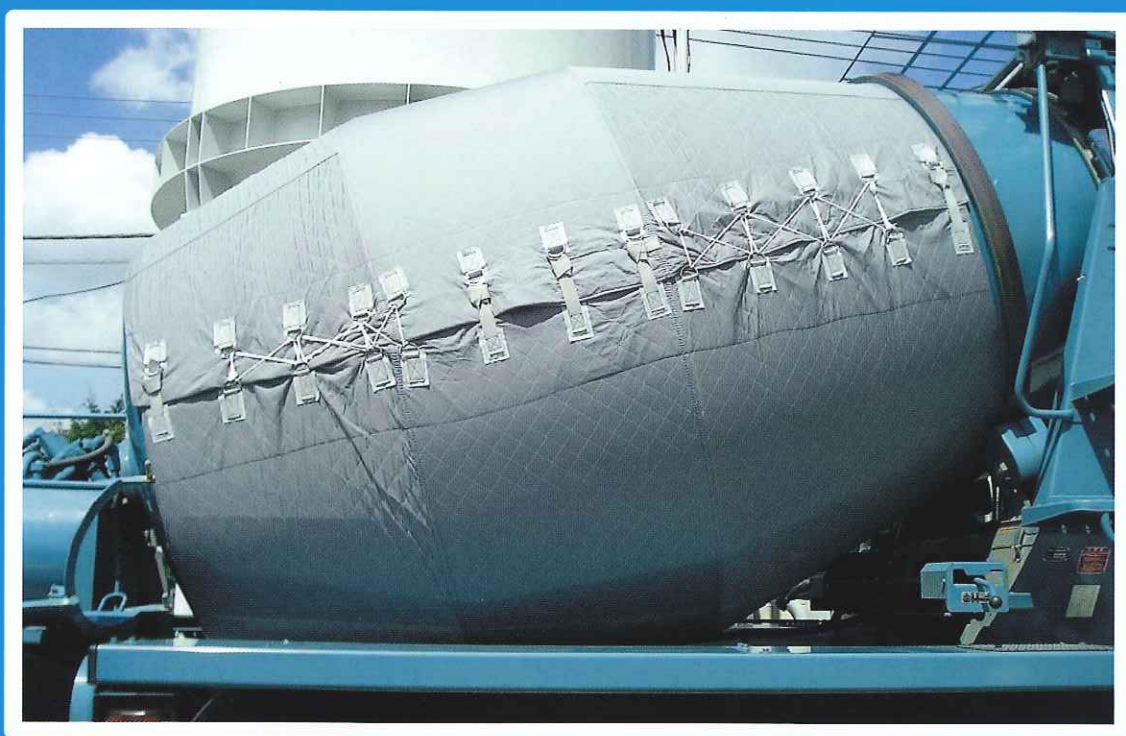


サーモシールド
Thermoshield コンクリート冷却システム

ドラムクーリングカバー



気化熱利用

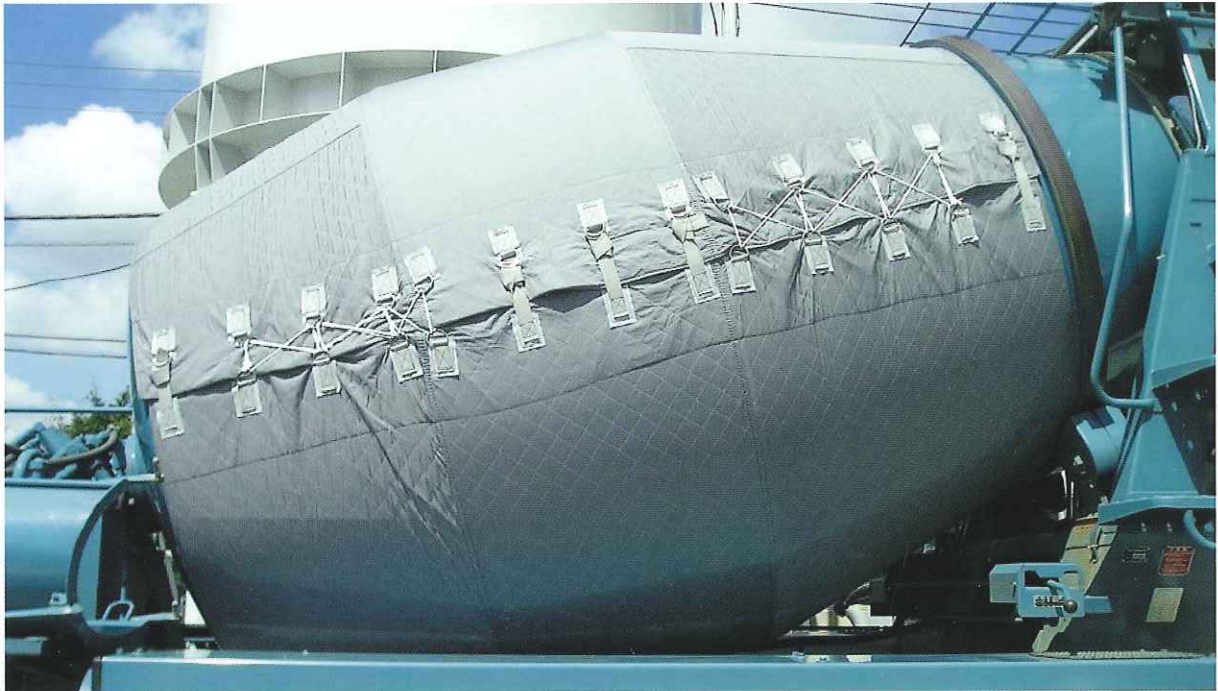
製造発売元



KURE GRINDING WHEEL
クレトイシ

<http://www.kgw.co.jp>

サーモシールド Thermoshield コンクリート冷却システム ドラムクーリングカバー

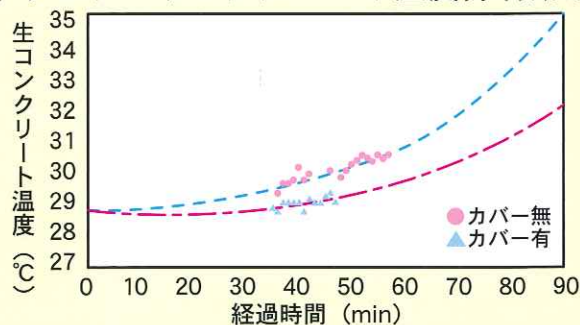


暑中コンクリートの泣き所だった運搬時における生コンクリート温度上昇を抑制できる初めての商品。これまではAE減水剤や練り混ぜ水などといった混和物による管理しかできなかつた暑中コンクリートの運搬中の温度上昇を、成分比を変える事なく水をかけるだけで抑制できます。

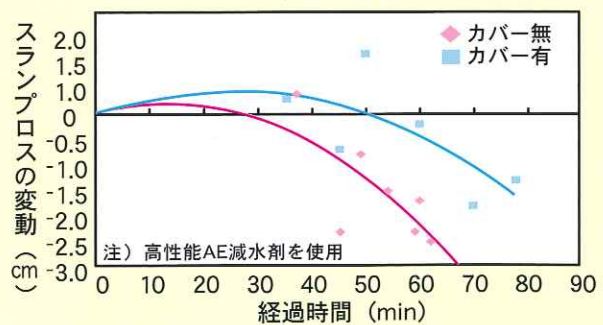
サーモシールドドラムクーリングカバーは直射日光を遮るだけでなく吸水繊維に含水した水を蒸発させて気化熱によって冷却します。又、ドラム内の温度が高温になるのを防ぐ事で、水分が内側に留まりコンクリート排出後の内面洗浄時においても、張り付いたスラッジを簡単に落とすことができます。

経済性と簡便さ、及びコンクリート品質に対する意識と社会的アピール性を兼ね備えた他に類を見ない新製品。それが **サーモシールド Thermoshield** ドラムクーリングカバーです。

ドラムクーリングカバーの温度抑制効果



スランプの経時変化抑制効果



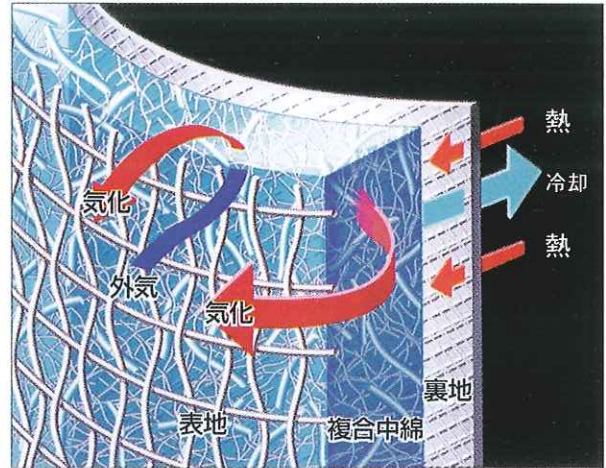
●本カバーの基本的構造

右図の様に二層構造の不織布と、表面素材をキルティングにより貼り合せた三層構造となっています。

表面素材には、内部に吸水した水分をカバー表面まで引き出す素材を用い、かつ表面まで染み出した水を太陽熱で容易に乾燥させる素材を選択しております。

複合中綿素材はレーヨン/アクリル混紡体です。親水性が極めて高い特殊繊維を採用する事で、繊維間に大量の水を溜める事に成功しました。

更に、中綿の基布となる素材は、表面素材と同様に導水性をもったものとなっております。



気化熱利用

●その他の素材

その他の部分については以下の様な素材を使用しています。いずれの素材も、強度を十分に検討し、耐久性を確保しています。(右図は、ベルト固定部分の拡大写真)

ベルト部：ナイロン100%
D管部：ステンレス



●外観

極めてシンプル・スマートなデザインです。

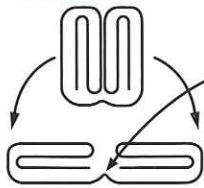


【カバー取り付け方法】

- ① ジャバラ状に畳まれたカバーを取り出し表裏、前後方向を確認する。



商品番号・ロット番号表示
※このラベルのある側が車体(ドラム)の前側を意味する。



表示位置

前側

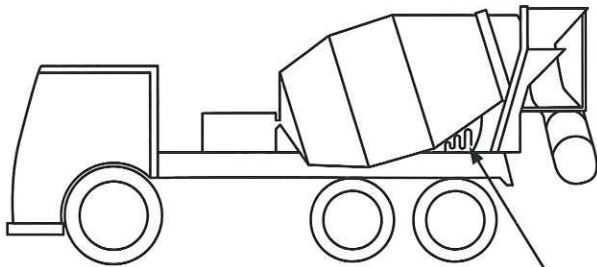
後側

カバー

D環



- ② ミキサー車の後部のドラムと車の隙間に、ジャバラ状に畳んだカバーを押し込む。



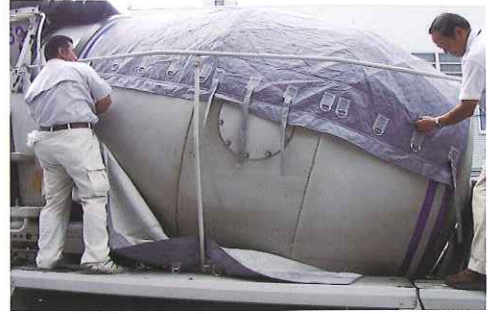
この部分に差し込む

- ③ 押し込んだカバーの先端部を車の両側でつかみ、前方向に向けて広げる。

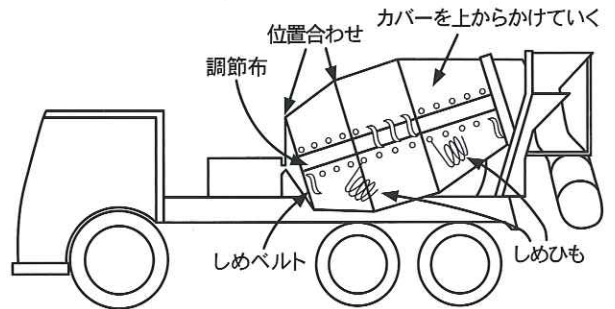


前に引いて広げる

- ④ 全部広げてから、ミキサードラムに巻き付ける様にカバーを掛け、ドラム中央の平行部とカバー平行部の位置を確認して、カバーの先端とドラムの先端を合わせ仮止めする。

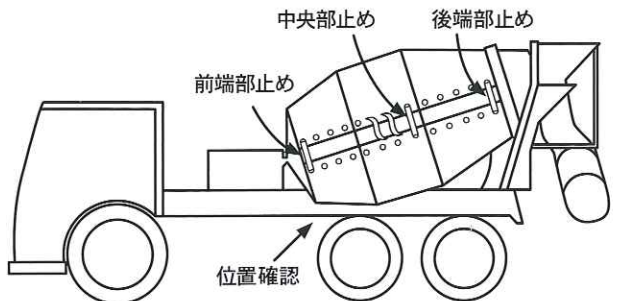


- ⑤ カバーのベルトがついている側には調節のための布がついているので、この布をD環のついている側の下に押し込む。



位置合わせ
調節布
しめベルト
しめひも
カバーを上からかけていく

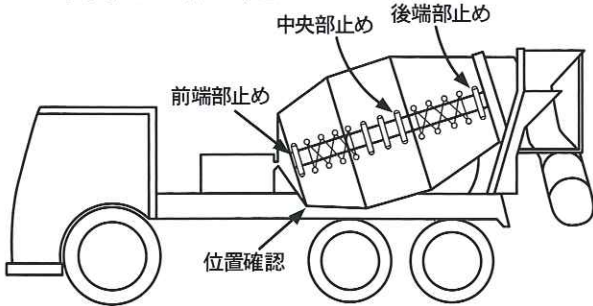
- ⑥ 中央部のベルトを仮止めし、前後の位置が揃っているかどうか再度確認する。カバーの余った部分は下側カバーを折り返して入れる。



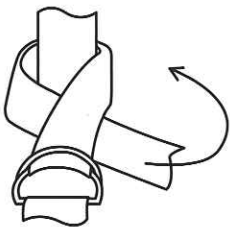
中央部止め
後端部止め
前端部止め
位置確認



- 7 先に前端部、後端部のベルトを強く締めてから、中央部のベルトをゆるみの無いように、前後方向にしわの無いように締める。その後テーパ部分のひもを上下交互に締め込む。



- 8 ベルトの余った部分はベルトの裏側に潜らせてから、端のベルトを裏側に回す時出来た隙間に押し込み、更に余っていれば同様の作業を繰り返し、外でブラブラしないようにする。



- 9 締め付けが完了したら、ドラムを低速で回転させ、カバー及び締めたベルトやひもが台車にあたっていないか確認する。

- 10 配線のパイプがあたることがあるので、この場合にはパイプ取り付け金具を、パイプがドラムから遠くなるように曲げ、調節する。

- 11 再度ドラムを回転させ、あたらないことを確認する。

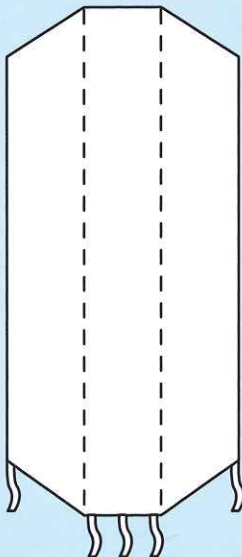
- 12 取り付けが完了したら水をかける。この場合水がかかると初めにキルティング加工した縫い目が黒ずみ、十分に水を吸い込むと全体が黒ずんで見えるようになる。これを必ず確認する。



【カバー収納方法】

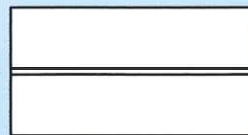
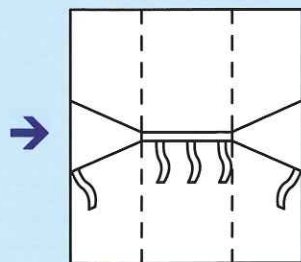
カバーは完全に乾いていることを確認して収納する。取り付けの状態であれば、天気の良い日に4時間ほど乾かせば完全に乾燥するが、取り外した状態では、広げて半日乾かし、ひっくり返してさらに半日乾かす必要がある。

外側を下にして広げる



両端を中央で合わせ内側に向けて折り畳む

再度中央で合わせて折り畳む



編み上げに使用したひもで縛る

更に半分に折る

長手方向を中央に合わせて折り畳む

中央で半分に折る



【カバー保存方法】

カバーは湿気の少ない棚の上などに保管するのが望ましい。カビが発生し生地劣化する原因になるため、雨のかかる所や地面に直に置いてはならない。



ご使用上の注意

- ・ドラムの塗装に傷がある場合、錆びの発生原因に成る事があります。
- ・商品の特性上、長時間濡れたままで、乾かない状態が続いた場合、カビの発生、色移りの原因になる事があります。
- ・カバーの装着については車体とドラムの隙間を十分に考慮し、カバー装着後に低速で回転させながら、車体にカバーが引っかからない事を必ず確認してください。
カバーに触れる場合は、破損の原因となりますので触れる部分を曲げたり除去したりして必ず触れない事をご確認ください。
- ・中綿の性質上、強い伸張力を与え続けると時間とともに中綿が薄く成る事があります。

製造販売元



KURE GRINDING WHEEL

クレトイシ株式会社

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-5

TEL 03-3432-4115 FAX:03-3432-4118

<http://www.kgw.co.jp>

・お問い合わせ先